# 環境だより

清掃課☎57-4100

## ごみステーションでの立ち番の効果

大塚・相楽町では、住民の方が、ごみステーションの立ち番を実施しています。そこで、立ち番をしていただいている西大塚区議員（常会長）の稲石さんにお話しを聞いてみました。

**大塚地区ではどんな方が立ち番をしていますか？**

「区議員がひとり1カ所の資源物ステーションを担当して、毎回立ち番を行っています。私の担当しているステーションでは、可燃ごみも兼ねているので、両方管理しています。」

**普段の活動で苦労していることはなんですか？**

「ごみ出しルールを知らないのか、分別がきちんとされてないことですね。特に、黄色と赤色のかごへ何を入れたらいいか知らない人が多いみたいですね。」

**ごみを出される方たちへのお願いはありますか？**

「家でしっかり分別してきてから出してほしいですね。ごみステーションに来てから分別している人は、分別しきれずにそのまま捨ててしまう人が多いようです。今一度、ごみ出しのルールを確認してみてください。」

蒲郡駅北側を中心とする小江総代区は、以前はごみ出しでとても困っていました。しかし、住民全員が交代で立ち番をするようになってからは、見ちがえるようにきれいになりました。このほかにも、形原町や鹿島町などでも同様に立ち番を実施し、きれいなステーションが実現しています。

この立ち番活動が市内全域で行われたら、蒲郡はもっときれいな町になるでしょう。みなさんも、ルールを守ってごみ出しをしましょう。

# 消防最前線

Journal of Fire Department 119

URL http://www.city.gamagori.aichi.jp/syoubou/index.html

## 消防士は足元から

消防士は、待機中に何らかの出動指令が入ると、指令に応じて服装を着替えるとともに靴も履き替えます。

待機中や消火用水の点検、防火対象物の調査では、身軽に動けるように安全靴を履いています。

火災指令の場合は、炎や熱に強く、釘などを踏み抜かないように底に鉄板の入った防火長靴。救助指令の場合は、軽さと安全性を追求したレスキュー隊員専用の黒い編上げ靴。救急指令の場合は、急病の方を運ぶために家の中に入っていかなければならないので、清潔で、履いたり脱いだりしやすい黒い革の短靴、といった具合です。

消防士が靴を履き替える速さは、着替え同様、目をみはるものがあります。指令が入ると同時に、足元はすでに安全靴や革短靴から防火長靴や編上げ靴に変わっているのは言うまでもありません。若手消防士のなかには、あせって救助指令にも関わらず救急用の靴を履いてしまったり、ひもがなかなか結べず、消防車に乗り遅れて先輩から怒鳴られたりもします。

何種類かある消防士の靴は、どれもピカピカに磨き抜かれています。消防士の机の中には靴墨とブラシが必ず入っており、わずかな汚れも見逃すことはありません。足元の汚れをそのままにしておくようでは満足な消防活動ができないことを、皆、承知しているからです。

皆さん、機会があれば消防士の足元を見てください。消防士の靴はピカピカに磨きぬかれ、足元から強い消防魂で固められているのがわかるでしょう。